

R3年8月3日(火)

テーマ：フィジカルアセスメントに自信が持てる看護師を目指して！  
(基礎編)

講師：山内 豊明先生 放送大学大学院  
教授

場所：看護研修センター

参加者：70名

ねらい：医療機器に惑わされることなく、患者の状態を正しく把握することが必要である。

視診、聴診、触診を用いてフィジカルアセスメントの重要性を理解し看護ケアに活かす。



非常に多くの方が参加してくれた。

講義では、生活の中の身近なことを例にして説明してくれたので、とてもわかりやすかった。

講義の中では、講師が自作されたビデオで、聴診や触診の方法などを見せてくれたため、理解しやすかった。



皆さんは、勤務の中で「この患者さんには、何もありません」など言われていませんか？

「何もないことはありません！」これは、「この患者さんには、問題がない」という意味ではないですかと講師は頻回に言われていた。

筆者も病院勤務時代には、「言っていたなあ」と今更ながら反省した。

R3年8月7日(土)

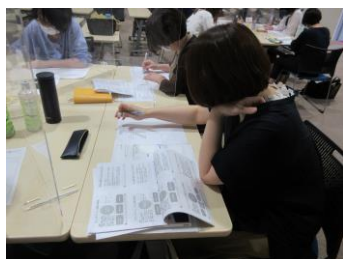
テーマ：コンピテンシー：組織の課題解決に向けて  
～コンピテンシー概念図を用いて～ (Web 配信研修)

講師：庄子 由美 先生 東北大学病院  
看護師長 認定看護管理者

場所：看護研修センター

参加者：43名

- ねらい：
- ・コンピテンシーの概念を理解し自施設での目標管理につなげることができる。
  - ・コンピテンシーについて学び、看護管理者として創造的に改革する能力を養うことができる。
  - ・コンピテンシー概念図（看護管理学会）を用いてリフレクションすることで、自己の看護管理実践における課題を明確にする。



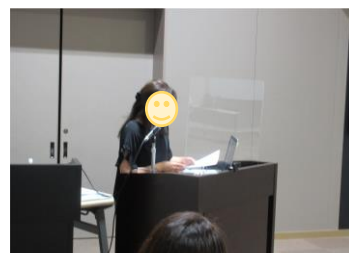
午前中は講義、午後からは個人ワークとグループワークを実施

自部署の問題と背景を考えて、書式に書くという宿題をもとにワークを実施



グループワークでは、身を乗り出して熱心に議論をしていた。

最後に発表。  
発表については、講師から「誰か発表してください。」の声掛けに、皆さん自ら挙手をしての発表。  
さすがの管理者研修だった。



今回は講師が Web による研修だったが、とてもわかりやすかった。参加者も個人ワーク・グループワークなどの中で「自部署の問題を解決するためには」初めに対策ありきではなく、問題を見つけるために「問題を列挙する」ことで、**根本的な問題**を捉えることを学んだ。  
アンケート結果では、「ねらいに沿った学習ができた」と回答した人が多かった。

R3年8月21日(土)

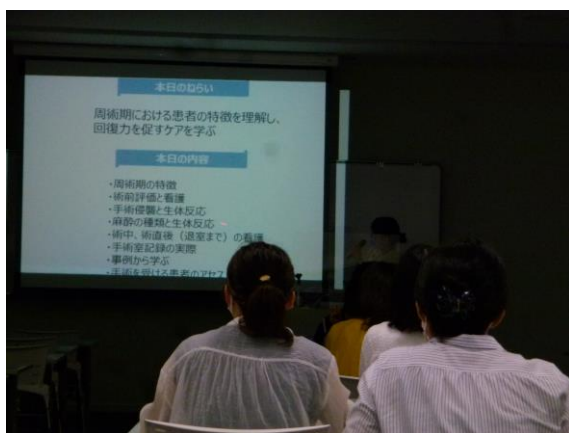
テーマ：実践につながる!!手術室看護師に必要な周術期看護の知識を深める

講師：宮崎 理恵 先生 日本赤十字社和歌山医療センター  
手術看護認定看護師

場所：ビッグU (田辺市)

参加者：28名

ねらい：周術期における患者の特徴を理解し、回復力を促すケアを学ぶ。



参加者の経験年数1～10年までの方が61パーセントで1番多かったです。実際に手術室で勤務されている方の参加で、「自施設で実践していることの再確認ができ、良かったです。」とコメントがありました。

### 周術期における看護師の役割

- ・手術後の修復過程促進への支援
- ・精神的な支援
- ・個別的問題解決に向けた支援
- ・自己決定に対する支援
- ・周術期における調整

術前評価し、看護師の役割を  
実際の写真や動画でわかり  
やすく、詳細に説明して  
いただいた。

身体侵襲が大きい治療法  
だから、生体反応をきちんと  
とらえることが重要!!

医学や医療機器が進歩しても、  
周術期のマネジメントは看護師の  
重要な役割



R3年8月24日(火)

テーマ：JNA ラダーの評価の実際【JNA オンデマンド研修 143】

講師：オンデマンド視聴

芝瀧 ひろみ 先生 和歌山県立医科大学附属病院  
看護副部長

場所：看護研修センター

参加者：12名

午前中は、オンデマンドを視聴して、午後からは講義とグループワークを実施した。



グループワーク中  
「自施設での問題点と課題  
今後の方向性」について  
皆さん、活発に議論していた。

自主的に前の演台まで来てくれて、  
多くの受講者が質問した。

ラダーの評価については、参加してく  
れた方の施設でも悩みが多いようだ。

この研修で少しは解決して、施設での  
評価をすることに活用されることを期  
待したい。



講師は Web で講義とグルー  
プ発表を聞きながら、最後に  
まとめてくれた。

左の画像は、会場の様子



R3年8月27日(金)

テーマ：看護現場をいきいきさせるファシリテーション

講師：浦山 絵里 先生 ひとつくり工房 esuco (Web 配信研修)  
代表

場所：看護研修センター

参加者：24名 (会場参加)  
8名 (Web 参加)

- ねらい：
- ・カンファレンスや会議等で参加者の参画意欲を向上させ、ファシリテーターとして、参加者の意見や力を引き出す技術を習得する。
  - ・職場を活性化し、合意形成や相互理解をサポートし問題解決に至るファシリテーションの基礎スキルを学ぶ。



座席に一工夫！

研修が講義とワークの繰り返し。そのため、前列の人が後ろを向くとワークができる配置にする。そうすることで移動時間がなく、すぐにワークを始められた。



ワークの様子を講師が見えるようにグループ毎に1台のパソコンを配置。書記の内容が見えるように、タブレットでWeb配信しながら研修を進めた。  
アンケートでは、「Webでも特に問題はなかったが、声のとぎれて聞きづらいところもあった」「楽しかった」などの意見があった。

R3年8月31日(火)

テーマ：ステップ4 看護研究に役立つ統計学

講師：岩原 昭彦 先生 京都女子大学発達教育学部心理学科  
教授

場所：ビッグU (田辺市)

参加者：5名

ねらい：分析に必要な知識や手法を学び、看護研究に活かせる。



参加者は5名とこじんまりとした研修でした。ステップ3看護研究に役立つ統計学に受講された方々です。

参加者の声

「初めての研究に関する研修に参加しました。課題が見つかり良かったと思います。内容はとても難しかったです。」

t検定：2標本の比較：

実験群と対照群の比較するとき

カイ2乗検定：3標本の比較：

指導前、指導直後、指導3か月後の比較

研究で知りたいことは？  
知るために必要な情報は？

統計学は

分析ツールだけど

思考のツールでもある